令和３年度

活　動　報　告

（年報）

空木岳（日本百名山）から見た雲海に浮かぶ朝焼けの御嶽山（日本百名山）

林野庁　中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

令和４年６月１６日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島１２５０－７
TEL 0264(22)2122　　FAX 0264(21)3151
E-mail ： kiso-fureai@maff.go.jp

活動内容等

一年を振り返って　…　１

第１　温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組
　１　阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林の樹冠調査　…　２
　２　中部森林管理局森林技術交流発表会で発表　…　３

第２　自然再生事業
　１　中央アルプス（木曽駒ヶ岳）における植生復元事業　…　４
　２　「城山史跡の森」における希少野生植物等の調査　…　６

第３　ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業　…　７
　１　生息調査

第４　森林環境教育への取り組み　…　９
　１　教職員を対象とした森林・林業学習会

第５　森林散策・木曽谷支援事業
　１　パズルラリー　…１０
　２　「木曽の国有林見学会　令和３年秋季」の開催　…１３

第６　森林ボランティアへの技術支援　…１４
　１　森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催

年間の活動及び行事等　…１５

活動フィールド

主な活動区域を木曽森林管理署及び南木曽支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成１６年　４月　１日　木曽森林環境保全ふれあいセンター設置
（所在地：長野県木曽郡日義村）
平成１７年１１月　１日　木曽町誕生による所在地名変更
（所在地：長野県木曽郡木曽町日義）
平成１８年　４月　１日　所在地の移転
（所在地：長野県木曽郡木曽町福島5471-1）
平成２４年　４月　１日　所在地の移転
（所在地：長野県木曽郡木曽町福島1250-7）
平成２５年　４月　１日　名称変更　「木曽森林ふれあい推進センター」

一年を振り返って

令和３年度の10月に新型コロナウイルス感染がワクチン接種の効果か急激な感染者の減少が有ったのも束の間、年末年始を迎えると感染力が強いとされるオミクロン株の猛威に日本全土が見舞われ、1日の感染者が10万人を超える事態となりました。

ワクチンのブースターと呼ばれる３回目の接種の効果などで免疫を持った人々が増加して集団免疫を形成し、新型コロナウイルスに世界全体が打ち勝つ日が来ることを願うばかりです。当センターの事業計画についても新型コロナの影響を少なからず受け、事業規模の縮小や見直し、実施するための人数制限を設けるなど、感染症防止対策を行いつつ可能な限り計画に基づき事業を実施してきました。また、令和3年4月より当センターの職員体制が４人から３人となりましたが、事業の継続性の重要度や地域への貢献度を念頭に効率的な事業を進めるために創意工夫を試みながら地方自治体や学校関係者、NPO関係者、研究機関など多くの皆さんのご理解とご協力により令和３年度を終えることができますことに感謝を申しあげます。

平成３年度当センターが行った取り組みの一部について紹介させていただきます。

（詳しい取り組みに内容については次項以降に掲載をしています。）

１．自然再生・生物の多様性の保全・その他森林整備の推進・技術的指導

①三者協定（信州大学・森林総合研究所・中部森林管理局）に基づき王滝村にある助六実験林で「木曽悠久の森」の更新調査（助六実験林は台風災害にる林道不通で未実施）

②木曽駒ヶ岳植生復元事業での植生マットの補修作業。

③城山史跡の森（城山国有林）での希少野生植物の保護活動及び植生調査。

④野生動物の生息調査等（ニホンジカ食害予防対策としての生息調査、ライトセンサス、クマ錯誤捕獲防止実証試験）、調査結果は当センターホームパージに公開しています。

２．森林に関する教育・学習に対する指導

①木曽地域の教職員への森林林業体験学習会の実施

②学生たちへの体験学習・森林散策の指導・案内の実施

③木曽川上下流交流事業である国有林見学会

④各ＮＰＯ団体との林業体験事業は関係者と次年度の方針を協議しました。

３．御嶽山噴火や豪雨災害等で甚大な被害を受けた木曽地域の復興

木曽十一宿（旧中山道の宿場町）、赤沢自然休養林、御岳山麓の３つのパズルラリーを継続しています。今年度から須原宿、野尻宿、宮ノ越宿及び御岳山麓は、木曽町、大桑村、王滝村及び各観光協会にご協力を頂き、無人だったパズルポイントを有人施設に移転等を行いました。これによりパズルピースの過不足の把握や利用者状況のチェックも常に可能となり、利用者の満足度の向上や当センター職員の負担軽減につながりました。

一年間多くの関係機関の皆様のご理解とご協力をいただきながら事業活動を行って参りました。令和４年度も当センターとして自然再生事業や地域振興等を継続し取り組んでいきますので今までと同様にご理解ご協力ををお願いします。

【所長：由井克彦】

第１　温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

木曽悠久の森

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曽地方の森林は、良質な木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では、木曽地方（長野県木曽地域及び岐阜県裏木曽地域）の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされるさまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曽悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等との連携を通じた取組を行っています。

広がりを持って永続する天然林へ復元させる作業を人工林の優良木材も得つつ、超長期にわたって計画的に行うため、３つのエリア（コアa（核心地域）、コアb（核心地域）、バッファ（緩衝地域））を設定しています。

位置図

温帯性針葉樹（木曽郡上松町）

※ コアa（核心地域）　　：温帯性針葉樹林を厳格に保存する区域
　コアb（核心地域）　　：温帯性針葉樹林の復元を図る区域
　バッファ（緩衝地域）：コアを守るための区域

１　阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林の樹冠調査

人工林から天然林へ復元するコアｂ（核心地域）では、森林のもつ公益的機能に支障が生じないよう間伐等の保育を適切に行うとともに、抜き切りを繰り返して林床の天然稚幼樹の発生・生長を促すなど、自然の推移を踏まえた超長期にわたる育成複層林施業等の実施を通じて、目標とする天然ヒノキ大径木を主体とした林型へ誘導することを目的としています。

当センターでは、木曽郡大桑村阿寺国有林にある「人工林ヒノキ優良林分展示林」内で、平成28年度から高齢級間伐林分における更新状況等を把握する調査を隔年で行っており、令和３年度は上木の調査を行いました。この調査は５年ごとに行うこととしており、今回で２回目となります。

調査項目は、樹高、枝下高、胸高直径、樹冠投影測定、開空度測定の５項目で、平成28年度の調査結果との比較は下表のとおりでした。また、樹冠はうっ閉していることが確認できました。

今後も稚樹等の継続的な調査を行い更新状況の推移等を把握し、木曽悠久の森等に関する業務の参考に資することにしていきたいと考えています。

調　査　日	平均樹高（m）	平均胸高直径（cm）	平均枝下高（m）
平成28年11月18日	32.4	45.1	22.1
令和 3年11月 2日	32.7	46.9	22.1

プロット1の樹冠の状況および開空度

プロット５の樹冠の状況および開空度

２　中部森林管理局森林技術交流発表会で発表

令和4年1月26日から27日に、令和３年度中部森林技術交流発表会が開催され、当センターと国立研究開発法人 森林研究･整備機構 森林総合研究所（以下、森林総研）が『木曽ヒノキ林成立以前の森林から森林管理を考える～古い根株の年代推定より～』と題して共同発表を行いました。

この発表は、木曽郡上松町の赤沢自然休養林内（小川入国有林）に成林している木曽ヒノキ等の天然木の伐採以前（16～17世紀）の林相の復元を目指して、森林総研との協働の取り組みを行っており、令和２年の探索で新たに発見したその年代のものと推測される伐根からサンプル採取を行い、森林総研で酸素同位体比等の解析を行い､その古い根株の生存していた時代と伐採されるまでの樹齢を推定しました。

その結果、西暦678年から1106年まで生育していたことが確認されました。よって、この根株の上のヒノキが350年前の伐採後に速やかに更新し、生育したと考えればこの根株の個体は1000年程度生きていたと推定できます。

現在の木曽ヒノキ林の大部分は林齢350年生程度ですが、それらはヒノキの生活史、林分の発達段階を考えるといまだ壮齢期とも考えられます。

今までの文献には木曽ヒノキの寿命を推測できる資料は少なく、今回の調査は、天然林育成整備や天然更新技術、また木曽悠久の森の管理方法にも大変参考になるものと考えます。また、サンプルとした古い根株は赤沢美林の新たな森林教育教材資源として活用が期待できると考えています。

今後も森林総研と協働で調査を継続し、古い根株の残存状況、分布、サイズ、年代などの情報を収集し､かつての林分構造を推定復元していきたいと考えています。

今年度の交流発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、森林管理局と発表者等をＷＥＢ会議システムで結んでの開催となりました。

発表の様子（木曽森林ふれあい推進センター）

発表の様子（森林総研）

第２　自然再生事業

趣旨

ＮＰＯ等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施します。

１　中央アルプス（木曽駒ヶ岳）における植生復元事業

（１）事業概要

中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、ＮＰＯ等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立て関係署および関係機関の協力の下、平成17年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年　月　日	敷　設　箇　所	面積（㎡）	参加者（人）
１７．　９．２９	天狗荘裏	２１０	２６
１８．　９．２１	天狗荘裏	２１０	３０
１９．　９．１９	伊那前岳八合目	２１０	３６
２０．　９．１８	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	２１３	３１
２１．　９．　２	駒ケ岳頂上山荘横（鞍部）	２０２	３１
２２．　９．１４	天狗荘裏・伊那前岳方面	２００	３３
２３．　９．１５	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	１９１	３６
２４．　９．１２	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	２３５	３６
２５．　９．１２	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	１４０	２９
２６．　９．１１	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	１５６	４６
２７．１０．１３	（荒天のため中止）		
２８．　７．２０	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	１５０	１２
２８．　９．　９	天狗荘周辺・伊那前岳方面	１０６	３０
２９．　９．１４	天狗荘裏	９５	１６
３０．　９．１３	天狗荘裏	８０	１３

元.　９.　１	天狗荘裏	８０	１５
２.１０.　１	駒ケ岳頂上山荘横（鞍部）	１５０	１２
３.　９.２７	乗越浄土・伊那前岳９合目	６０	１１
計		２,６８８	４４３

注）参加者には、ボランティア、行政機関等を含む。
　　面積は延べである。

（２）令和３年度の取り組み

9月27日、上伊那郡宮田村の黒川国有林（木曽駒ケ岳）で、平成17年から当センターが主体となって行っている植生復元作業を行いました。

この取り組みは、登山者の入込増加が誘因と考えられる踏み荒らしが進行し、さらに大量の降雨や融雪水、凍結融解による砂礫の移動、強風等が植生の荒廃に拍車をかけていることから、登山道周辺の植生復元を目的に植生マットの敷設を行っています。

例年は、長野県、駒ヶ根市、宮田村および関係森林管理署等の応援を得て行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止対策の観点から作業を中止としました。しかし、作業地選定のため現地に登った際に資材の一部を運搬し仮置きしたことから、この資材については南信森林管理署の応援を得て作業を実施しました。

作業は植生マットを敷設しそれを現地の礫やペグで押さえ、さらに登山道周辺から採取した高山植物の種子を撒きつけるというものです。

今年は８月の豪雨により林道が被災し通行規制がされていたことから約半月遅れの作業となりました。採取できた種子は採取許可を受けた植物のうちの一部でしたが、順調に作業を終えることができました。

今年度の作業個所は、八丁坂登山道から尾根道に出た広場で、木曽駒ケ岳、宝剣岳、伊那前岳方面への分岐点となるため、多くの方が休憩をする場所でもあり、登山者から作業の目的や内容を尋ねられたり労いの言葉をいただきました。

種子採取の様子

復元作業の現場を視覚的に認識できることから、登山道以外への無秩序な踏み込みの抑止と共に、表土の保全や種子の保持等、植物の生育に対する期待もできることから、今後も継続して実施していく考えです。

乗越浄土での植生マット敷設の状況

伊那前岳9合目での植生マット敷設の状況

２　「城山史跡の森」における希少野生植物等の調査

木曽郡木曽町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曽氏によって築かれた山城である福島城跡や、木曽義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、JR中央本線木曽福島駅から比較的短時間で木曽ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外から観光客が訪れています。

また、「城山史跡の森」は、福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を利用した気軽なハイキングコースとして知られており、木曽川下流域の人たちとの交流の場としても活用されています。

「城山史跡の森」の権現滝

（１）希少野生植物等の生育箇所の整備

城山国有林には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマのほか各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。　今年度もササユリ自生地において野生動物による食害防止のための電気柵の設置等や、カザグルマ自生地におけるツルの整理等の作業を行いました。

①　カタクリの開花状況

令和3年4月19日

近くに群生地があり、ここの開花を目安に調査をしますが、年々、開花が早くなっているように感じます。

個体数は多いですが、開花個体は少ないです。

②　ヤマシャクヤクの開花状況

令和3年5月7日

開花から２～３日で散る短命花ですが、近年は大型連休中に開花する個体が増えてきました。

③　カザグルマの開花状況

令和3年5月24日

令和２年秋に支柱の取り換えと蔓の整備を行ったので開花数は少なかったですが、綺麗に咲いてくれました。

④　ササユリの保護と開花状況

令和3年5月19日

令和3年6月14日

毎年、イノシシの食害から守ることを目的に電気柵を設置しています。
併せて、センサーカメラを設置していますが、イノシシの他にクマ、カモシカ、サル等が撮影されます。

⑤　近年の開花状況

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
カタクリ	４　（５０１）	１０　（４２１）	７　（３１０）
ヤマシャクヤク	２１８　（５５７）	１９６　（４４０）	１７２　（５０２）
カザグルマ	２０３　（１４９）	１３４　（１０９）	１７　（１３７）
ササユリ	２８　（１０１）	３２　（１０１）	１４　（５９）

（　）内は個体数で外書き　カザグルマは蔓本数

第３　ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業

深刻化しているニホンジカによる森林及び高山植物への被害について、木曽地域では顕著に現れていない状況ですが、中央アルプス山麓ではニホンジカが確認されています。今後、各地への被害が懸念されており、木曽森林管理署及び木曽森林管理署南木曽支署では実態に応じた対策が進められています。

当センターでも関係機関等との連携を図り、センサーカメラ及びライトセンサスによる生息調査、クマ錯誤捕獲防止実証試験を行っています。

１　生息調査

（１）センサーカメラによる生息調査

平成28年度から中央アルプス山麓や御嶽山麓を含めた国有林地内にセンサーカメラを設置し、ニホンジカの生息状況の観測を行っており、ニホンジカが撮影された地点ではセンサーカメラを増設するなど撮影を続けています。

令和２年度までの調査で中央アルプスや御嶽山の高山地帯までニホンジカの生息範囲が広がっていることが確認されたため、令和３年度の調査ではニホンジカの個体数調整のための捕獲事業等を見据えた里山山麓地帯での調査に重点を置き、移設や新たな設置を含め９ヶ所でセンサーカメラによる撮影調査を行いました。（木曽町内の八沢入国有林３ヶ所、城山国有林１ヶ所および裏駒ヶ岳国有林１ヶ所、塩尻市内の奈良井国有林２ヶ所、大桑村内の伊奈川国有林２ヶ所）

木曽町近郊の城山国有林では、令和２年度に初めて遊歩道を歩くニホンジカのオスを撮影することができました。今年度も同じ場所でメスが撮影されました。奈良井国有林では、伊那谷と木曽谷との峠の設置箇所を木曽谷の林道脇へ移設しました。その結果、ニホンジカの成獣だけでなく、メスに連れられた子ジカの姿も撮影されました。高山帯ではオスの成獣が多く撮影されていましたが、その麓ではメスや当年に生まれた子ジカも生息していることが確認できました。伊奈川国有林でも同様に、高山地帯ではオスが単独で撮影されていましたが、今回林道ゲート付近まで撮影場所を移したところ、メスが数頭の群れで行動していることが確認されました。高山帯ではオスが単独で活動しているものの、その山麓部ではメスや子供ジカが群れとなって生息していることが撮影結果より明らかになりました。

奈良井国有林　ニホンジカ♀子

最もニホンジカの撮影回数が多い八沢入国有林

また撮影結果から同じ林内でも場所によって撮影される回数が大きく変わることがわかりました。八沢入国有林内の３カ所が特に顕著であり、林道下の設置個所では令和3年4月から10月中旬までで706回撮影されているものの、林道ゲート横の設置個所では９回のみの撮影結果となっています。また、クマ錯誤捕獲実証試験事業で林内にワナを設置し毎日見回り等を行っていた９月には撮影回数が大きく減少しました。

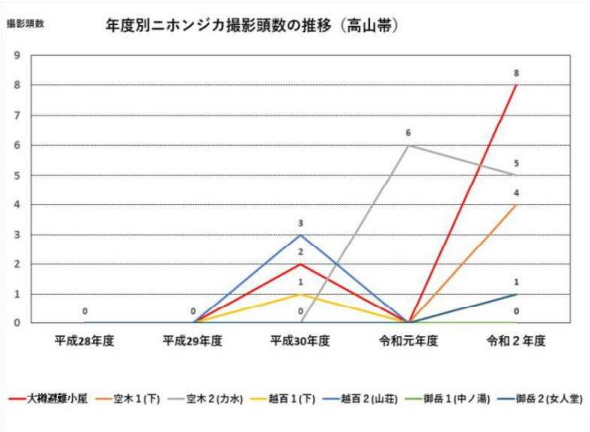
人の気配や訪れる頻度がニホンジカの行動に影響したと考えられます。

今年度から新たに近隣の木曽森林管理署や南木曽支署と撮影場所等の情報を共有し、木曽地域のセンサーカメラ設置場所を地図に明記したものを当センターのホームページに掲載しました。そのほか平成28年度から令和３年度までの撮影データも表とグラフにまとめ掲載し、木曽地域のニホンジカ生息拡大状況の情報共有を行っています。

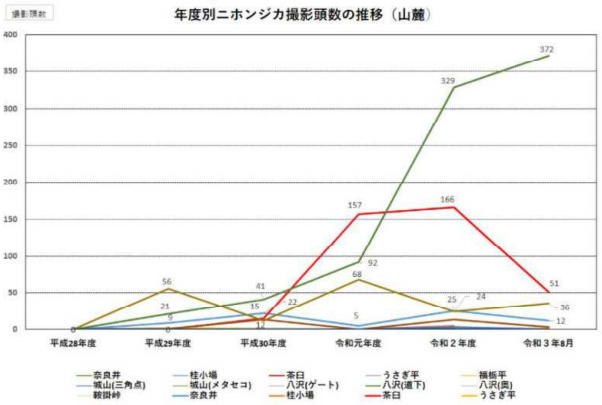
木曽地域のニホンジカ個体数調査実施箇所

中部森林管理局管内での情報共有に加え外部へ情報発信することで、木曽地域内

におけるニホンジカ対策の協力や連携の第一歩になったと考えています。
　今後も捕獲事業等を見据えた場所で撮影結果によってセンサーカメラの新設や移設を行いながら他署や他機関とも連携しニホンジカの個体数や生息範囲の調査を継続していきます。



高山帯の撮影状況



山麓の撮影状況

（２）ライトセンサスの実施

　ライトセンサスによるニホンジカの生息調査は、八沢入国有林周辺の山麓線を実施箇所とし、長野県木曽地域振興局林務課および木曽森林管理署、当センターの職員で５月～10月の間月１回程度、日没後に林道沿いで行いました。
　令和２年度ではニホンジカが確認されませんでしたが、令和３度は八沢入国有林付近のキビオ峠でニホンジカのメスと子ジカ、別の場所でも若い個体を確認しました。付近のセンサーカメラでは当センターが調査を行っている中で一番撮影回数の多い群れも確認されており年々撮影回数が増えていることから、木曽谷のニホンジカの個体数が増えてきている兆しと考えられます。

ライトセンサスの実施状況

　平成29年からの調査結果は下の集計表の通りです。まだまだ目撃回数は少ないものの、今後のニホンジカの増加や活動範囲の変化等を読み取る上では大切なデータのひとつと考えています。改善点や工夫をしながら今後も引き続き調査を進めていきます。

ライトセンサス集計表

八沢入

年度	H２９	H３０	R１	R２	R３
個体数	0	１（♂１、不明１）	0（不明２）	0（実施区域外・子１）	3(♀３、子１)

御嶽

年度	H２９	H３０	R１	R２	R３
個体数	実施せず	0（不明２）	0（不明１）	0（不明１）	0（不明１）

第４　森林環境教育への取り組み

１　教職員を対象とした森林・林業学習会

8月3日（火）、木曽郡内の小中学校の教職員を対象に、『森林・林業の役割や森林環境教育の重要性について認識を高めていただくとともに、森林環境教育を学校教育の中に積極的に取り入れていただくこと』を目的として、木曽郡上松町の赤沢自然休養林（小川入国有林）で森林・林業学習会を開催しました。当日は、教職員３名と関係機関から１名の参加があり、一般公開をしていない学術研究路を案内しました。

参加された教職員からは、「貴重な資源として引き継いでいきたい」、「地元でもあり歴史、キャリア学習、自然学習、ふるさと学習など、学校教育に取り入れたい」、「地元の子供たちにも学んでほしい」との感想が寄せられました。

御神木の伐採跡地で説明

木曽五木の説明

第５　森林散策・木曽谷支援事業

１　パズルラリー

平成26年9月に発生した御嶽山噴火災害により、木曽谷の観光産業は大きな打撃を受けました。８年が経過する現在では落ち込んだ観光客数に回復の兆しはあるものの、災害発生前の水準に戻っておらず、加えて、新型コロナウイルス感染症対策でさらに深刻な影響を受けています。

こうした中、当センターでは木曽谷の観光ルートである木曽街道にちなみ、「中山道木曽十一宿パズルラリー第２弾」、「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」および「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」を実施しています。

長野県の提唱する「つながろう木曽応援運動」の一環として、木曽谷の観光ルートである木曽街道にちなみ、過去の歴史上の偉人・文豪等により創生された木曽ブランドが有する集客や木曽谷の連帯強化への波及効果をパズルラリーに期待した取組です。

（１）中山道　木曽十一宿パズルラリー第２弾

木曽街道には十一の旧宿場があり、長野県塩尻市贄川（にえかわ）宿から木曽郡木曽町の福島宿までを北部、木曽郡上松町の上松宿から岐阜県中津川市馬籠（まごめ）宿までを南部として実施しています。

北部と南部にある旧宿場や旧関所跡等の12ヶ所に６分割した２種類の浮世絵の木

製ピースを置き、これらを全部集めると２種類の絵柄を完成させることができます。
　パズルの絵柄には上松町の木曽路美術館のご協力をいただき、江戸時代の浮世絵師歌川広重が描いた「木曽海道六十九次」の中から北部は「奈良井宿」、南部は「須原宿」を採用しています。

北部の完成品（奈良井宿）

南部の完成品（須原宿）

　第２弾は令和2年1月7日から始めたもので、北部、南部でそれぞれ300セットが無くなり次第終了としています。
　令和３年度の参加者は北部のみ完成した方が13名、南部のみ完成した方が３名、北部南部どちらも完成した方が18名、計34名の方にご参加頂きました。
　令和２年度までは、パズルピースが設置してある12箇所の宿場町のうち、「須原宿」「野尻宿」「宮ノ越宿」が無人のパズルポイントであったことから、参加された方より「人がいなくてさみしかった。」「交換用紙では張り合いがない。」とのご意見を頂いたため、それぞれの宿場の関係機関の方々のご理解とご協力をいただき、パズルポイントを有人の箇所へ移設することとしており、令和4年4月からは中山道十一宿の南北12箇所全てのパズルポイントで直接人の手からパズルを受け取り楽しんで頂けます。

（２）御嶽山麓トレッキングパズルラリー

　令和2年8月より木曽谷観光産業のさらなる復興支援の取組として、「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」を実施しています。
　令和２年度にご参加頂いた方のご意見を参考に、パズルピースの受け渡し場所を御岳ロープウェイ駅内、温泉施設やまゆり荘、王滝観光総合事務所、開田観光案内所の４ヶ所に設置し、木製パズルピース全４枚を集めて応募用紙に必要事項を記入し、当センターあてメール、郵送または直接持ち込みいただくと張り板と台座をプレゼントします。
　パズルの絵柄は、上松町内の木曽路美術館の協力を得て、歌川広重が描いた「木曽路之山川」を採用しました。
　ご参加頂いた人数は昨年よりも多い14名でした。参加された方からは「登山後に温泉に入ることができ、開田高原や御嶽湖を巡るちょうど良いコースだった」、「近場の観光地を巡って完成させることができるので、

御岳山麓パズルラリーの完成品

参加しやすい」、「御嶽古道やロープウェイを経験した記念として参加した」また、コースを変更したことで「気軽に参加でき御嶽山麓の魅力を知るよいきっかけになった」等のありがたい感想を頂きました。

（３）赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー

赤沢自然休養林内の遊歩道沿いや施設を巡り６枚の紙パズルを集めて木製のパズルセットと交換する「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」第６弾・第７弾を赤沢自然休養林開園期間中に実施しました。

第６弾の絵柄は、中部森林管理局が所蔵し林業遺産に登録されている「木曽式伐木運材図会」の１場面を６分割したものです。この木曽式伐木運材図会は、江戸時代後期頃の木曽地方や飛騨地方の奥山で大木を伐採するところから、造材、搬出・集材、木曽川でのいかだによる流送、熱田の白鳥湊（愛知県名古屋市）での集積、大型船による海上輸送までの様子が、作業工程順に絵図と詞書(ことばがき)で説明されている絵巻物２巻からなり、今回は上巻に描かれている「御山厘の図」を採用しました。

第６弾のパズルセットは好評につき開始時に用意した300セットは終了し、10月からは新しい絵柄の第７弾を開始しました。第７弾の絵柄は、同じ「木曽式伐木運材図会」に描かれている「鴨桴之図」を採用しました。江戸時代では木材を川に流して運搬しており５、６本の木材を合わせて桴(いかだ）を作り途中で引っかかってしまった木を外したり、作業者が川を渡ったりするのに利用していました。伐木運材図会には作業者が二人で桴に乗り川を渡っている様子が描かれています。

第６弾の完成品

第７弾の完成品

赤沢自然休養林トレッキングパズルラリーは、令和３年度までは各ポイントに紙パズルを配置して応募用紙に貼り付けて木製パズルセットと交換する形式でしたが、紙パズルの取扱いや在庫切れによる職員の運営負担等の問題点を考慮して、令和４年度からは各ポイントにスタンプを設置し「赤沢自然休養林スタンプパズルラリー」としてスタンプを押した用紙により木製パズルセットと交換する形式での運営を検討しています。

木曽森林ふれあい推進センターのパズルラリーは平成28年度から始めた事業で、参加者だけでなく協賛していただいている各団体機関からも「好評だったので継続して欲しい」との意見が寄せられています。

令和４年度も地元町村や観光協会等の協力を得ながら木曽谷支援の取組として参加頂いた方の要望に応えられるよう引き続き実施していきます。

２　「木曽の国有林見学会　令和３年秋季」の開催

10月29日、「木曽の国有林見学会令和３年度秋季」を木曽郡上松町の赤沢自然休養林で、新型コロナウイルスの感染防止の観点から募集定員を縮小し、30代から80代までの21名の方にご参加いただきました。

中部森林管理局の国有林は、木曽川の上流部に多く分布し重要な水源地として管理され、その下流域では愛知用水を活用して農業、工業、家庭等の用水として利用されています。また、現在の名古屋市熱田区白鳥は、江戸時代初期の名古屋城の築城や江戸の町づくりのため､木曽谷等から木曽ヒノキ等の豊富な森林資源を背景に、木材の流通が盛んに行われてきました。この見学会は、木曽の国有林が果たしてきた役割や現状を認識してもらうため、名古屋市を中心とした下流域の住民の方を対象に開催しました。

中部森林管理局名古屋事務所では、参加者を対象に見学会をより楽しむため10月21日に事前学習会を開催したところ６名が参加されました。

見学会当日は秋晴れの穏やかな天気で、車窓から色づき始めた紅葉を楽しみながら現地に到着しました。

花村名古屋事務所長の歓迎の挨拶、昼食の後、森林鉄道に乗車し、四班に分かれて林内散策を行いました。

各班では当センター職員及び名古屋事務所職員が説明を行い、昭和60年に執り行われた第61回伊勢神宮の式年遷宮の御杣始祭での御神木の伐倒の様子を木曽署職員がタブレットにより紹介しました。

名古屋事務所での事前学習会の様子

約一時間半ぐらいかけてゆっくり案内をしたこともあり、参加者からは、「天気が良く紅葉もきれいでよかった」「何度も訪れているが説明を聞いてより理解が深まった」「新型コロナウイルスの感染でどうなるかと心配したけど開催されてよかった」との感想が寄せられました。

地衣植物の説明

御杣始祭の御樋代木の伐採の様子を説明

第６　森林ボランティアへの技術支援

１　森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催

9月30日、新型コロナウイルスの感染状況等が落ち着いたことから「森林ボランティア・ＮＰＯ連携推進会議」が長野県塩尻市の長野県林業総合センターおよび会員のフィールドで開催されました。

この連携推進会議は、中部森林管理局管内の森林ボランティア団体・ＮＰＯ等が一堂に会し、研修、交流を通じ更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、今後の活動の方向性を検討することを目的に毎年開催されており、当センターは、連携推進会議の実行委員として参画しています。

当日は、ボランティア団体・ＮＰＯから13名、森林管理局署等から９名の参加があり、主催者・来賓の挨拶の後、林業総合センターの職員の案内により構内の研究林を見学しました。その後、三班に分かれワールドカフェ方式により、「この会（連携推進会議）をどうする？」というテーマで意見交換を行いました。

意見交換会の様子

各班からは、「ボランティア団体の交流の場として継続する。」「未参加団体への参加の呼びかけと情報提供を行う。」「やりがいを感じられる内容とする。」等の意見が出されました。

場所を移動して、ボランティアとして活動している団体のフィールドで製材機や簡易炭焼き窯を見学しました。

例年は、一泊二日で開催し、一日目は参加団体の見識を広げるための研修、二日目は「森・ふれあいフェスタ」を開催し、ミニ椅子作りや木工細工等のブースを開設し一般の方との交流を図ってきましたが、新型コロナウイルスの感染防止対策の観点から昨年度は中止となり、今年度は規模を縮小しての開催となりました。

林業総合センター 構内を見学

ボランティア団体のフィールドを見学

年間の活動及び行事等

月	日	活　動　内　容
4	8	木曽十一宿パズルラリー確認（北部）
	9	木曽十一宿パズルラリー確認（南部）
	12	赤沢自然休養林パズルラリー準備（上松町小川入国有林）
	15	木曽駒ケ岳植生復元打ち合わせ（南信署、宮田村、宮田村教育委員会、中央アルプス観光（株））
	16	木曽十一宿パズルラリー南部打ち合わせ（大桑村）
	19	城山史跡の森　カタクリ開花調査（木曽町城山国有林）
	20	センサーカメラデータ回収（木曽町八沢入国有林ほか）
		王滝村やまのこ学校協議会総会（王滝村）
	21	センサーカメラデータ回収（塩尻市奈良井国有林ほか）
	22	中日森友隊「国民の森」現地確認（王滝村）
	28	赤沢自然休養林パズルラリー箱設置（上松町小川入国有林）
	29	赤沢自然休養林開園（上松町小川入国有林）
5	6	赤沢自然休養林パズルラリー箱確認（上松町小川入国有林）
	7	城山史跡の森　ヤマシャクヤク開花調査（木曽町城山国有林）
	14	長野県上松技術専門校体験林業（上松町小川入国有林）
	19	城山史跡の森　ササユリ電気柵設置（木曽町城山国有林）
	20	第1回森林ボランティア・NPO連携推進会議（木曽森林ふれあい推進センター）
	24	城山史跡の森　カザグルマ開花調査（木曽町城山国有林）
	26	第1回　ライトセンサス（木曽町八沢入国有林）
6	11	長野県木曽青峰高校体験林業（上松町小川入国有林）
	14	城山史跡の森　ササユリ開花調査（木曽町城山国有林）
	21	木曽十一宿パズルラリー南部打ち合わせ（須原郵便局）
	22	瀬戸川千年の森木橋塗装作業（王滝村瀬戸川国有林）
	23	天然更新個所調査（森林総研・木曽署協働）（王滝村三浦国有林）
	29	木曽駒ケ岳植生復元予定地現地確認（上伊那郡宮田村黒川国有林）
7	2	赤沢自然休養林パズルラリー確認（上松町小川入国有林）
	5	木曽十一宿パズルラリー確認（北部・南部）
	15	協定に基づく3者会議（森林総研、信州大学、中部森林管理局）
	27	長野県林業大学校赤沢自然休養林案内（上松町小川入国有林）
	28	第2回森林ボランティア・NPO連携推進会議（塩尻市長野県林業総合センター）
8	3	教職員森林・林業学習会（上松町小川入国有林）
	26	「秋の国有林見学会」打ち合わせ（名古屋事務所）
9	2	令和3年度クマ錯誤捕獲防止実証試験事業（木曽福島）開始（木曽町八沢入国有林ほか）
	3	第2回　ライトセンサスによるニホンジカ生息調査（王滝村御岳国有林）
	13	赤沢自然休養林木橋整備（上松町小川入国有林）
	27	木曽駒ケ岳植生復元作業（上伊那郡宮田村黒川国有林）
	30	第3回森林ボランティア・NPO連携推進会議（塩尻市長野県林業総合センター）

年間の活動及び行事等

月	日	活　動　内　容
１０	14	「秋の国有林見学会」打ち合わせ（上松町小川入国有林）
		（特定）地球緑化センター現地確認（上松町小川入国有林）
	18	令和3年度クマ錯誤捕獲防止実証試験事業（木曽福島）終了（木曽町八沢入国有林ほか）
	26	センサーカメラデータ回収（大桑村伊奈川国有林）
	29	「秋の国有林見学会」開催（上松町小川入国有林）
１１	2	阿寺展示林調査（大桑村阿寺国有林）
	8	赤沢自然休養林パズルラリー箱撤収（上松町小川入国有林）
	9	御嶽山麓パズルラリー箱撤収（木曽町三岳ほか）
	10	城山史跡の森　ササユリ電気柵撤収（木曽町城山国有林）
	11	天然更新個所調査（森林総研・木曽署協働）（王滝村三浦国有林）
	12	赤沢自然休養林パズルラリー箱撤収（上松町小川入国有林）
	15	センサーカメラデータ回収（塩尻市奈良井国有林ほか）
	17	木曽十一宿パズルラリー確認（北部・南部）
１２	7	大桑村猟友会（クマ錯誤捕獲実証試験）打ち合わせ（南木曽支署）
	10	三者協定（森林総研、信州大学、中部局）懇談会（中部局）
	13	令和3年度木曽悠久の森管理委員会植生管理専門部会（Web）
	17	木曽地域獣害対策勉強会打ち合わせ（木曽署）
	21	木曽地域獣害対策勉強会打ち合わせ（木曽地域合同庁舎）
１	12～13	令和3年度中部森林管理局技術交流発表会（森林総研）打ち合わせ
	19	大桑村猟友会（クマ錯誤捕獲実証試験）打ち合わせ（大桑村役場）
	20	木曽地域獣害対策勉強会打ち合わせ（木曽署）
	26～27	令和3年度中部森林管理局技術交流発表会（WEB）
	27	大桑村猟友会（クマ錯誤捕獲実証試験）打ち合わせ（大桑村役場）
２	2	大桑村猟友会（クマ錯誤捕獲実証試験）打ち合わせ（大桑村役場）
	15	センサーカメラ設置（塩尻市堺峠）
３	1	木曽郡猟友会打ち合わせ（大桑村役場）
	8	木曽悠久の森管理委員会（WEB）
	10	中山道十一宿パズルラリー打ち合わせ（木曽町日義支所）
	16	第4回森林ボランティア・NPO連携推進会議（塩尻市）
	23	令和4年度有害鳥獣錯誤捕獲業務委託事業（大桑村須原地区）打ち合わせ（大桑村役場）